

シンポジウム 4

「大腸腫瘍に対する内視鏡診断と治療の現状と課題」

司会 斎藤 豊（国立がん研究センター中央病院内視鏡科）
池松 弘朗（東京大学医科学研究所附属病院消化器内科）

大腸内視鏡診療の発展は目覚ましく、診断では、LCI、TXI、RDI などの新たな画像強調内視鏡（IEE）の登場、超拡大内視鏡観察や AI の開発も進み、更なる診断能の向上が期待される。治療では、Cold polypectomy、Underwater EMR などの新しい切除法が加わり、また ESD ではトラクション法や縫縮法の開発が多く議論されている。Serrated lesion を含めた大腸腫瘍の存在・質的・深達度診断、治療法の選択および工夫、偶発症予防に関し、幅広い演題を募集し、大腸内視鏡診療の現状と課題に関して議論したい。